

# 新たな悲劇

21年にわたる戦い、そして今、干ばつによる荒廃

## ユスフ・ハッサン

アフガニスタンが再び危機に陥っている。世界で最多の、そして最長にわたって難民を生み出すという不名誉な記録に加え、史上最悪とも言われる干ばつに見まわられている。その結果、死者と土地の荒廃がもたらされた。

影響は1200万人に及び、400万人もが深刻な被害を受けた。作物は収穫できず、畑や果樹園、河川、ダム、井戸は干上がり、何百万ものアフガン人が生活の糧とする家畜の群れが死んだ。穀物生産は半減し、230万トンにもものぼる記録的な食料不足に陥っている。

国連は「アフガニスタンにとって今年には特に困難な年だったが、2001年に人々の苦難は今年よりさらに厳しくなる」とし、何百万人もが飢餓に直面すると予想している。

何万人もの人々が故郷を去り、生き残るために必死でアフガニスタン国内、さらに国外へと移動した。主要都市であるカブール、カンダハル、ヘラート、マザリシャリフ、ジャララバードへは避難民が常に流れ込んでいた。最も被害が大きかったアフガニスタン西部地方から5万人以上が、国連が数個のキャンプを設営するヘラートの町へと逃れてきた。北部では、避難民は仮設の避難所、学校、公共の建物などで避難生活を送ったり、現地の家庭に身を寄せたりした。国境を越えパキスタンとイランへ入った人々の数も相当

数になる。

21年間絶え間なく続き、終わる気配のない戦争で荒廃しきった国に、干ばつがさらに追い討ちをかけた。

1979年のソ連によるアフガニスタン侵攻が、620万人のアフガン人を隣国のイランやパキスタンへと追いやった。1989年のソ連軍撤退、1992年のナジブラ政権の崩壊が平和へのわずかな希望をもたらしたが、勝利を手にしたゲリラ勢力は、たちまち反目する派閥に分裂した。

1994年に登場したタリバンも、国の混乱を止めることはできず、流血の内戦が再開された。

タリバンは1996年に首都カブールを制圧してから、アフガニスタン北東部を支配する対立勢力、アームド・シャー・マスード率いる北部連合の打倒に勢力を傾け、以来両者は、前線だけは移動するものの、長い間決定的な勝敗をつけられないままだ。

タリバンは、2000年9月、正式な大統領とされるブルハヌディン・ラバニの政治の本拠地、タロカーンを占拠し、タジキスタン国境への幹線道路も制圧した。

## さらなる脱出

干ばつによってもたらされた荒廃から逃れようとする人々に加え、7万人もが戦闘から逃れようと避難した。

凍てつく寒さの中、タジキスタンへ

の入国を拒否された約1万人が、タジキスタン国境パイヤンディ川で立ち往生した。

2000年11月、国際社会からの継続的な資金援助なしでこれ以上難民に対処できないとパキスタンが国境を封鎖する前に、6万人が同国へ逃れた。

ソ連侵攻を逃れた6百万を超えるアフガン人のうち、約440万が帰国している（UNHCR設立以来、最大規模の難民帰還のひとつ）が、パキスタンとイラン両国には約260万人のアフガン人がいる（2000年1月1日時点）。加えて数知れない人々が世界各国に散らばっており、アフガン難民は現代史上「最大」そして「最も長期にわたる」難民のグループとなっている。また、60万から80万人が国内避難民となっている。

希望的観測などあったためしはなく、将来の見通しは非常に厳しい。

難民の受け入れ国は、難民受け入れに疲れ始め、受け入れ国の国民の間には難民を嫌悪する感情が高まりつつある。庇護の機運がしぼむ中、20年以上難民生活をしているアフガン人は、長居しすぎて迷惑がられていると感じ始めている。

「高官が次々と難民キャンプを訪問し、人々の悲惨な状況や苦難を軽減する必要を説いていた日があったのをよく覚えている」と、1980年代にもパキスタンで勤務していた、UNHCRパキ



アフガニスタンの干ばつと戦争の影響

© R. VENTURI

スタン代表ハシム・ウトカンは回想する。「そうした光景は、今では遠くにかすんでしまった。戦略上の関心事の変化、別の場所での難民の出現、報道される機会の減少と、アフガン難民は話題にならなくなった」

見捨てられて

アフガニスタンの状況を特に悪化させているのは、かつての超大国など、この国を不安定にした国々が、突然アフガニスタンを見捨てたことである。冷戦が終結し、アフガニスタンの事態は緊急事態として注目を集めなくなり、国際社会は他の地域での注目度の高い危機に関心を移した。アフガニスタンは注目に値する戦略拠点でなくなっていた。

アフガニスタンにおけるUNHCRの事業への支援金が最低水準となり、難

民援助の大幅削減が余儀なくされた。アフガニスタン国内の状況は、戦争と干ばつで悪化の一途をたどった。

厳しい財政状況、体制の崩壊、人権侵害、関係当局の方針や施策により、アフガン難民の帰還支援事業は難航している。

最近、UNHCRが4,025人の帰還民家庭の世帯主に対して行った調査によれば、24パーセントは定職が無く、41パーセントは自宅が完全に破壊され、11パーセントは地雷や不発弾などの問題に直面し、45パーセントもの人々が保健衛生サービスを一切受けられず、79パーセントが子どもを就学させることができない状態だった。

アフガン難民とUNHCRは、「資金に制約がある中、将来の見通しの立たない帰還と庇護状況の悪化」という二重のジレンマに直面している、とUNHCR

南西アジア地域局長ムスタファ・ジェマリは、持続可能な帰還を達成するために、国際社会はアフガニスタンに再び関心を持ち、破壊されたインフラを再構築のための援助をする必要がある、と言う。

政治的解決が何度か試みられたが失敗に終わった。この紛争は、国内、地域、そして世界的要因が複雑に絡みあった様相を呈し、純粋な内戦とは捉えることはできない。国連は、関係する勢力の側からこの紛争をあおり続けている外部関係者を非難している。

アフガニスタンの悲惨な状況を報道する外国からのテレビカメラや記者はいない。国際社会が無視すると決めた知らざれる戦争がもたらす破壊に、アフガニスタンの人々は耐え続けている。